

記念座談会

「ベテラン大いに語る」

平成 20 年 3 月 6 日 於：京王プラザホテル 4 階 ロータリーサロン



座談会出席者

- 橋本 昭治会員(1960年8月1日入会)
- 大貫 一会員(1964年4月1日入会)
- 関戸新一郎会員(1965年1月21日入会)
- 豊崎 益夫会員(1970年4月9日入会)
- 高橋 友昭会員(1970年7月9日入会)
- 土屋 勝会員(1971年4月1日入会)

記念誌制作者

- 土屋 隆…記念誌委員会 委員長
- 堤 吉久…記念誌委員会 司会・編集
- 中村 千晶…記念誌委員会 写真撮影

土屋 本日は、我がクラブに入会してから 35 年以上の大ベテランの会員の方々にお集まりいただきました。八王子ロータリークラブもここで 50 周年を迎えますが、皆さんはその長い歴史と伝統の 7 割以上を、流れとして知っておられる方々です。この座談会では、これから新たな 50 年に向かう八王子ロータリークラブの新しいメンバー達に伝えておきたいこと、創立当時の思い出、ロータリークラブへの想いなどを存分にお話いただきたいと思います。

入会当時の思い出

司会 それでは、入会当時の思い出をお聞かせく

ださい。トップは、1960 年（昭和 35 年）8 月 1 日入会以来、100%皆出席 48 年目の橋本会員からお願いいたします。

橋本 昔のロータリーの思い出は、とめどもなくございます。私事ですが、私の入会は我がクラブ創立の翌年でした。安藤芳次郎さんが 2 代目会長をなされていた時です。当時、八王子商工会議所の



橋本 昭治会員

片野友博氏と北島藤次郎氏が、クラブの幹事と副

幹事として6年間もクラブ運営をしていました。ところが小沢治郎さんが7代目会長をなさっている時、片野氏が脳溢血で倒れられて、急遽、クラブの会員の中から初めて幹事を出すことになりました。それが堤辰次郎さんでした。

その翌年中村勝利さんが第8代会長になった時、私が幹事になる事が決まったのですが、当時は幹事が何年も変わらなかったもので、副幹事になる大貫一氏と一緒に「幹事、副幹事は、会長と同じく毎年替わることを中村会長に約束していただきました。

それ以来、幹事も副幹事も毎年代わっていく現在の方式になっていきました。

司会 1966年橋本幹事と一緒に副幹事になられた大貫会員、当時を振り返って、思い出をお聞かせください。



大貫 一会員

大貫 橋本さんが入会されて3年後、1964年（昭和39年）4月1日、橋本さんが私のスポンサーとなって入会しました。以来、橋本さんとは、橋本さんが16代会長になられた時、私が幹事を努

めさせていただくようなお付き合いです。先のお話しのとおり、1966年に橋本さんが第8代中村勝利さんの幹事になられ、私は副幹事になりました。この年、我がクラブは、東京八王子西RCと東京日野RCのチャーターナイトを取り仕切る事となり、私と橋本さんの二人は交代で毎月1回帝国ホテルで行われる「在京クラブ幹事会（現在の地区の前身）」に行き、細かな調整までしました。

私は、副幹事の仕事の他にも、チャーターナイトの為に週1～2回会合に出なければならず、仕事との両立は大変でした。

橋本 東京八王子西RCは新しく創ったというより、八王子が分かれたと言う感じでした。当時RIのほうからは「分裂はいかん！」と言われたのです

が、八王子RCの侍達が「何を言うんだ！これからそれぞれのクラブが増強するんだ。」と言って、色々ありましたが、RIに認めてもらいました。RIに認めてもらう為に、お骨折りいただいたのが中村千晶会員のご尊父、（この時の第8代会長）中村勝利さんでした。

東京日野RCの設立時は高幡不動尊金剛寺の大僧正秋山祐雅氏、東京八王子西RCの創立時は田辺留次郎さんが責任者となりましたが、互いに遠慮して創立準備が先に進まなくなり、結局八王子RCがまとめ役になった経緯がありました。

大貫 RIへ設立の申し出は、八王子西RCと日野RCを同時に出したんですが、RIから「八王子は分裂じゃないか。」と言われ、創立記念日は、日野RCの方が早くなったんです。

橋本 日野RCと八王子西RCのチャーターナイトは合同開催だったが、この時から挨拶は日野RCが先になりました。

大貫 私はチャーターナイトの記念品委員会の委員長でした。我がクラブと新クラブの会員を含めて記念品を700個用意しました。当日、予想を超える参加者となり、足りない分は追加発注し、我がクラブの会員には暫し待っていただきました。

橋本 両クラブの設立には、大貫さん、堤辰次郎さん、白石寿二さんが随分苦勞しました。

豊崎 1980年に八王子東RCを創った時は、拡大委員会の10名くらいで、国道20号線の八王子駅側を駆け回ってチャーターメンバーを募りました。

土屋 1979～1980年 第21代久保三男会長の時、私が幹事でした。服部ガバナーから「拡大しろ」と催促が頻繁にありました。拡大委員長は橋本昭治さん、特別代表（ガバナー代行）は金田品二さん、特別委員に私になって創りました。

司会 あらためて、ご苦勞様でした。

それでは、1965年1月21日入会の関戸会員の“苦労ばなし”をお聞かせ願います。関戸会員は、現在、100%皆出席43年目です。



関戸新一郎会員

関戸 第7代小沢会長の時に、橋本さんの紹介で入会いたしました。私にとっての一番の思い出は、1975～1976年の地区大会のホストクラブを、我がクラブがやったという事です。当時、東京は地区が分かれておらず、ガバナーの輩出クラブとは関係なく東京郊外のクラブがホストクラブとなるのは初めての事。試行錯誤で何ヶ月もかけて準備しました。

私は、前夜懇談会から始まって、第1日目、第2日目の地区大会すべての司会を、一人でさせていただきました。ただ、前夜懇談会のアトラクションの司会だけプロを頼んだところ、何万円もの請求が来たので、「俺も何十万円か貰えるかなー」と冗談を言ったものです。(笑)

自慢話になりますが、全部のシナリオを作り、三日間司会をやって、人名、クラブ名を一字一句間違えず、すべてのプログラムを時間どおり進行させました。

自慢話になりますが、全部のシナリオを作り、三日間司会をやって、人名、クラブ名を一字一句間違えず、すべてのプログラムを時間どおり進行させました。

橋本 大変すばらしい司会でした。

他クラブからは「ありゃどこのプロですか？」と質問されましたね。

司会 私も白石さんから「堂々とした、立派な司会だった。」とお聞きしたことを覚えております。

1970年(昭和45年)4月9日入会の豊崎会員はどのような思い出がございますか。

豊崎 私も橋本さんの紹介で入会しました。入会した時は堤辰次郎さんが11代会長で、例会場は八王子商工会議所の4階会議室でした。食事はバイキング形式。明治生まれの偉い方々が大勢いらっしゃるテーブルがありました。私は若造だったので、

あえて先輩方のテーブルへ行って、食事の給仕をしたものでした。思い出は、やはり1975～1976年の地区大会のホストクラブをやったこと。



豊崎 益夫会員

私は商売柄、大会の食事担当となりました。この時のガバナーは、東京銀行の松平一郎さんで、東銀の会長室へ何回も出向いて打ち合わせをしました。

地区大会で一番お金が掛かるのが“食事”。しかも当時の地区大会は3日間。何人の食事を用意すればよいかを読むのが大変だった。ホストクラブを受け、お金が足りなくて臨時会費を一人5万円程集めました。大会中、嵐があった日があり、参加者が減ってしまうと読んで、無理をいって食事の数を調整しました。

大会の決算ではお金が余ったので、皆に返そうという事になりました。お金ではなく、記念になる品物で返そうとしました。

関戸 その記念品は、セイコー社製で、ロータリーのマークの文字盤、裏面に「地区大会記念と会員の名前」を刻印した物でした。提案した私が先ず注文して、皆に見てもらい記念品として採用されました。私は今でも使っているよ。

大貫 私も使っているよ。

全員 へーっ そいつは凄いや。

司会 1970年(昭和45年)関戸さん入会3ヶ月後の7月9日に入会された高橋会員の思い出をお聞かせください。

高橋 私の入会した時は、第12代会長内藤喜一さん、幹事は白石寿二さんでした。白石さんとはこの時から“腐れ縁”が続きました。(笑)私のスポンサーは、第10代会長松本樺太さん。

私の家内の父親が松本先生の患者だったという



高橋 友昭会員

縁でした。1969年9月に第一勧業銀行を退職して新潟から八王子に来たばかりでした。松本先生は「八王子の事は何も知らないというならば“ロータリークラブという良いクラブがあるから、

入って皆さんに八王子のことを教えて貰ったら良い。」と言って下さいました。八王子に来たばかりで、入会させて貰って、役に立って、非常に有難い推薦をいただいたと感謝しています。松本先生は“謹厳実直”を絵に描いたような人物でした。片や内藤会長は「夜」のほうが得意で、入会当初はロータリーの魅力は、松本先生の「昼」なのか、内藤会長の「夜」なのか判りませんでした、どちらも大変役に立ちました。

今思えば、東京八王子RCが多摩の模範となるクラブで来られたのは、歴史的に優れた方々が何代もいらっしやったからだと思います。

土屋 私の入会は1971年4月1日、市議会議員馬戸春雄氏の紹介でした。

入会する前、親交のあった白石寿二さんと話をすると、八王子の主な銀行の支店長、主な企業の社長、主な商店のご主人方を良く知っておられたので「白石さん何故そんなに主だった方々を知っているのですか？」と尋ねたら「まあ、それなりに知ってますよ。」と言われた。ロータリークラブに入って会員名簿を見たら、主だった方々の名前が揃っているの、白石さんの顔が広い謎が解けました。これがロータリクラブに入会した時の強烈な思い出です。

現在のロータリークラブの活動に一言

司会 入会当時の思い出をお聞かせいただきましたが、現在のロータリークラブについて、感想、ご意見をお聞かせください。

橋本 入会当時の我がクラブは、商工会議所が運

営する“会”でした。土屋さんや豊崎さんのご努力で、ある時期からクラブ独自の運営が始まりました。会員だけでクラブ運営している現在が、“あるべきロータリーの姿”だと思います。

土屋 現在の話しをするのに、少し遡りますが、我がクラブ創立以来、八王子商工会議所の事務員がRCの運営、会計すべて仕切っていました。1966年に例会場を八王子商工会議所の4階会議室に移した頃、年間の事務委託費は520万円、借室料70万円、諸経費として130万円、年間合計700万円の高額を支払っていました。1981年頃よりクラブの運営を見直さないと賄えない状況になって来ました。

1987～1988年 第29代会長に私になった時、八王子商工会議所への委託を一切止め、クラブとして事務局を設け、同時に例会場を横山町のFAMに移しました。

クラブ運営の改革に時間が掛かったのは、挨拶原稿からスケジュール作りまで、すべて委託していた為であり、特に会計については、予算がどの位残っているか事務員以外は分からない状態でした。税理士の平明道会員にクラブ会計の基本を整備してもらいました。

私が会長の時に「会員が皆で考えてクラブの運営をする」現在のクラブの原型を作ることが出来て良かったと思うし、一番印象に残っています。

司会 土屋さんのお話しに対して、参加者の皆さんから「英断でした。このような内容は、おめでた



い 50 周年記念誌には向かないように思われるかもしれないが、今後の我がクラブが 50 年続く為に記録として残したい。」といった意見が交わされました。

関戸さん違った観点から現在の我がクラブへの御意見をお願いいたします。

関戸 一時期 JC の方々がどんどん入会して、RC が JC の大学みたくなってしまい、会の進行まで JC 式になった事が有りました。

最近では JC 出身者以外の会員も増えましたし、元 JC の方々も上手に進行するようになって、うまく溶け合っているので大変よい事だと思います。

今更私のような先輩が言うのもなんですが、我がクラブ独自の行事、奉仕活動が少ないのが寂しいなと思っております。

高橋 我がクラブというよりもロータリー全体に対して 2 つ気になります。

1. 規律が乱れている＝例会を毎週開かない。
2. テリトリーが崩れている。

テリトリーを守らずに会員が集まるとクラブの特徴がなくなる。会員数が少ないからと言って複数のクラブが合同例会をしたりしている。

会員増強の為にロータリーの規律や原則を乱していくと、かえってクラブの良さを損なうのではないかな。

土屋 高橋さんが提起したことに関連して、八王子市内にたくさんの RC が出来る前、例えば八王



子と八王子西しかなかった頃は、メイクアップに行けば八王子の主だった人物と顔をあわせる事が出来た。今は我がクラブ内でも言葉を交わす事が少なくなっている。ロータリーの綱領第 1 は「奉



土屋 勝会員

仕の機会として知り合いを広めること」である。奉仕をする前に会員同士の親睦が必要なのに少ない。新入会員を集めて歓迎会や、炉辺会談、ロータリー情報委員会などもっと親睦の機会を作ったらどうだろう。

司会 土屋さんから「もっと会員同士の親睦の機会を設けよう。」との提言が有りました。

これからの我がクラブがいかにあるべきかという提言をお聞かせください。

橋本 土屋さんの「我がクラブ内でも言葉を交わす事が少なくなっている。」というのは、例会が乱れているのではなく、会員同士の“年代の差”に理由があると思います。80 代と 50 ～ 60 代の会員が距離を置く。私達が入会をした時はその逆を経験しました。但し八王子 RC しかなかったから会員の名前を知らないなどと言う事はなかった。

高橋さんがロータリー全体の問題と指摘した

1. 規律が乱れている＝例会を毎週開かない。
2. テリトリーが崩れている。

の 2 件はクラブ拡大に軸足を置き過ぎたからではないでしょうか。

大貫 我々の入会した頃は RC に対する考え方が今とはまったく異質だった。

政府の ODA などではなく、ボランティアという言葉すら日本にない頃、ロータリーだけが国際奉仕をやっていた。私は国際奉仕の地区委員を 3 回務めました。地区委員会に出席するのも自腹、メイクアップにもなりません。その上、地区提唱の国際奉仕では集めた資金を相手国に届けるのも旅費、滞在費共に自弁でした。しかし委員は皆その事を誇

りに思ってしまったものです。ですから当時のロータリアンは皆誇りを持って入会したものです。メイクアップもサインの為だけに行くのではなく、実際に他クラブの会員に合いに行く為にメイクアップ料を払って交流した。

今はこれだけ緩やかにしているのに、会員が増加しないで減っている。

関戸 一頃はロータリーそのものに“夢”があったように思います。今は、付き合いで入ったとか、役職が変わって転任したから入会したという方もいらっしゃる。

このクラブに入ったからには、「このメンバーになりきるんだ」というような、“覚悟”というか“気持ち”で溶け込んで欲しい。

元からいる会員も後から入った会員も、もっと積極的に声を掛け合えばよいと考えています。

豊崎 会員の増強が最大の目的と言うが、この時代の私達のクラブに合う“何か”が欲しい気がします。

若い人たちが“こうありたい”というものを持って、その方向に向かう事が望まれる。

高橋 夢があって魅力のある、入会したくなるクラブに戻れないかと思いますが、どうしたらよいか分からない。

土屋 橋本さんが言うように、私達が入会した当時には年齢差があった、そして年配者が親分肌で、



新入会員を「昼」も「夜」も可愛がってくれた。

だから自然とクラブに溶け込めた。今は新入会員歓迎会がない。ないから会員同士の繋がりが大きくなならない、いつも知った会員同志と一緒にいる。もっと懇親の機会を作り年配者は率先して、新入会員歓迎会に参加しないといけない。

豊崎 炉辺会談と銘打って、新入会員も誰もかもが、委員会を超えて気軽に一杯やろうと集まっていた。

土屋 ある時期、毎月1回は夜間例会にして、食事代はクラブの会計だが酒代は自腹としていました。

これからの執行部の方々への願いは、会員同士が深くなれるような、親睦の場を工夫して欲しいということです。

どうも親睦の場が少ないような気がします。

あとがき

6人の八王子ロータリーのベテランに集まっていただきました。皆さんはロータリー暦が長いだけでなく、さまざまな要職も経験され、ロータリーに対して人一倍の情熱をお持ちの方々です。50周年誌の座談会を快く引き受けてくださり、ご高齢にも係らず(などと言うのも失礼なほど)非常に正確に30年40年前のことをお話くださいました。まさに八王子ロータリーの歴史と伝統そのままの大変すばらしい座談会を聞くことが出来ました。

また、関戸会員は、入院中にも係らず座談会に出席していただきましたが、この座談会の3ヵ月後に永眠なさいました。ご冥福を祈るとともにロータリーに対する熱い想いを引き継いで行きたいと思います。

記念誌委員会 委員長 土屋 隆

「矢野ガバナー年度の思い出」

平成 20 年 5 月 29 日 於：香川



座談会出席者

- 矢野洋四郎 1994～95年度RI第2750地区ガバナー
- 高橋 友昭 同年度地区副幹事
- 川名 法人 同年度地区副幹事
- 平田 允 同年度地区大会実行委員会幹事
- 杉本 當正 同年度地区会計
- 天野 照仁

記念誌制作者

- 土屋 隆…記念誌委員会委員長 司会
- 小坂 優…記念誌委員会 記録
- 宮原 隆夫…記念誌委員会 記録

司会 今日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。50周年記念誌では、座談会というかたちで矢野ガバナー年度の思い出を記録に残したいと思います。というのは、ガバナーを輩出し、地区大会をホストした1994～95年というのは、八王子ロータリークラブの50年の歴史の中でも全員が一丸と成って一番頑張った特出した年度だと思うからです。

ガバナー年度の地区の年次報告書はありますが、八王子ロータリーとしてどのように関わったかという事が残っていません。そこで今回、皆さんが元気なうちにちゃんと記録を残して、100年後のロータリーにも残るようにしたいと思います。

ガバナー決定までの経緯

矢野 私がガバナーになった経緯ですが。当時は地区の中でも区部が断然たる力を持っていて、市部からガバナーが全く出ていなかったんです。それが、調布の秋山さんが出る事によって、区部と市部の両方からガバ



矢野洋四朗会員

ナーを出すべきだという意見ができました。じゃあ、いったい市部では何人候補者がいるかということで、八王子の矢野や誰それが適当だろうという話になって、ここから話が始まったわけです。地区のやり方を変えたんですね。それで、我々の方に

ガバナーが来たわけです。



川名 法人会員

川名 最初は、別のクラブの人にいったんですが、断られて小倉さんが困って、パストガバナーの松原さん、秋山さんに相談にいったところ、松原さんが「矢野がいるじゃないか。あれはいい」という話をされて、八王

子に話が来て、当時の会長だった僕と幹事の西仲君が小倉さんに呼ばれて、「内諾を貰ったら俺が行くから」とうことで矢野さんに伝えたわけです。ところが、矢野さんは「俺は二番煎じはやらない」とはっきりと断ったんです。それでまた、松原さん、秋山さんに相談にいったら、「そんなの、二番煎じじゃあ俺だってやらねえよ。決まってるじゃねえか」。「全部白紙に戻せ。白紙に戻して最初からガバナー選考をやろう。そうしたら、矢野さんも二番煎じじゃなくなるじゃないか。頭を使え」と。ガバナー訪問で小倉さんが日野クラブにお見えになった時に、すぐ来てくれということで私と西仲さんで行った時に、「新しく白紙でスタートして矢野さんをお願いしたい。それだったら受けるだろう」ということでした。全ての選考を白紙に戻して選考したところ矢野さんを指名したいということになったわけです。そこで、矢野先生も「それだったら出ていいかな」ということになったのが経緯です。その結果、小倉さんは秋山さんとか松原さんとかといったパストガバナーにギューっとやられて、大変ご苦労されたそうです。秋山さんというのは、高幡不動の住職ですから、秋山さんをお願いして高幡不動の別院をつかわせてもらい、そこに通されて話を伺って、矢野さんがガバナーになった、というのが経緯です。

矢野 そんなことがありまして、ガバナーを受けることになったのですが、当時は、ガバナー事務所がなかったですから、それは自分で背負わなければならなかったんです。ガバナーが自分の場所にガバナー事務所をつくっていましたから、私がガバナーになれば八王子にガバナー事務所をつくるということなのですが、それは遠いから駄目だということになりました。「冗談じゃないよ。こっちから向こうに行くのも遠いんだから、向こうだってこっちが遠いのは当たり前だろう」と言ったのですが、

駄目なんです。ということで、八王子を諦めたのですが、松原さんから「俺が使ったガバナー事務所をそのまま使っていいよ」という話をいただきました。松原さんにしてみればお金をもらう必要はないんですが、何も払わなくてガバナー事務所を出すというのはまずいので、八王子 RC にお金を出してもらって借りたんです。

川名 微々たる金額でしたけどね。

組織作りはすんなり決まる(?)

矢野 ガバナーを受けるとなると一人では出来ません。当時は、白石さんとしょっちゅう連絡しあっていた。どこでしたかと言うと、「すみれ」です。それで、「幹事誰にする?」という話になります。我々のなかで、誰がどうするというのは大体決まっていました。当時は、誰が会長になれば誰が幹事になるかというのは分かっていたんだね。そんなことで、白石さんが幹事になりました。

高橋 白石さんは、二つ返事?

矢野 白石さんは、二つ返事です。私はガバナーの話を聞いて、すぐ白石さんに電話したんです。白石さんの方が、僕よりも地区に対して顔が広いんですよ。西川さんがガバナーの時に丸山さんが地区幹事をやって、白石さんはその時に副をやったんです。だから、白石さんはいろんなことを知っている訳ですよ。僕がやる時も三多摩の人はわかる、でも区部は全然分からないんです。誰がどうしたらいいのか。彼が全部まとめてくれる訳です。当時は、今と違って会長が全部を取り仕切ってやっていた。幹事は誰、これは誰と全部会長が決めていた。そういう人間関係がしっかりしていたからダーっとできたわけ。今は、会長がいて幹事、副幹事がいて、なんだかんだって分散化されているんじゃないかと思います。これは、地区全体としてもそうだし、例えば八王子に今度ロータリーのガバナーが来ますよといったら、その人がスタッフに全部自分の好きな人を入れるというわけには行かなくなるんじゃないかな。私の時にはそういう人が回りにいたから出来たんだ。

平田 副幹事の高橋さんと川名さん中村さんもすんなり決まって、そういうスタッフは、八王子は問

題ないですね。

司会 自然とそういうのが出来ちゃって。

川名 自然とじゃないですよ。絶対命令です。断るってことは無いんだ。返事も聞かないで、決まりなんですよ。

矢野 でも、案外気を使っただけですよ。



高橋 友昭会員

高橋 地区の副幹事は8人いまして、私と川名さんと中村さん、西クラブの杉本さん、後は都内です。一番、まず重要なことは担当をどうするかという事でした。白石さんは、総括なので個々にやるのは副幹事なんです。

だから、例えばPETSをやるのは川名さんとか、地区協議会は杉本さんとか割り振りをやって、それからガバナー訪問に随行するのを、どの地区をどの副幹事がやるかというのを決めました。

私は、東分区をやって、白石さんが行けないところを補助しました。川名さんは、中分区。そういう具合に各クラブを担当したわけなんです。まず、地区の割り振りをして分担を決めて、次にガバナー訪問をどうスケジュールするかということで、白石さんはタッチしなかったの、私と川名さんでスケジュール組んだんです。

地区副幹事は大変だ

川名 ガバナー事務所へは、90回くらい行きましたね。PETSなんて、あれだけの作業をやるわけですからクラブで協力してもらわなければいけない。当時の会長が平谷さんで、「協力しましょう」って、ガバナー事務所にこんなに書類を積んで、全部やるんだって。そうしたら、地区幹事が来てこんなものはガバナー事務所でやるからいいよって断っちゃった。せっかく手伝ってくれるってスタッフも集めたのに断っちゃったんです。

白石さんに「大丈夫ですか？」と聞いたら、「大丈夫だ」って。中村さんも毎日ガバナー事務所に行っていましたから、「川名さん、明後日までにやるって決めたはずだぜ。できっこねーぜ。何やってん

だよ、川名さん担当だろ」って。「えー」ってガバナー事務所にすっ飛んでいって、クラブからの手伝いがないので、飲み屋のママにも言ってもらってあっちこっち人を集めて、大勢で一日朝から晩までやっただけですよ。ありゃビックリした。高橋さんは、筆頭副幹事で、白石地区幹事は全体を見なきゃいけない偉い人ですから、身近に相談できるのは高橋さんになっちゃう。中村さんは違った意味で大変で、白石さんの雑用は全部中村さんがこなしていました。

高橋 それと地区便覧の編集が大変でした。矢野さんがうるさいんだよ。一字でも間違っちゃいけないって。その前、地区便覧を出した時に間違いがあって、煩いパストガバナーがかなり文句言っていたらしいんだよね。矢野さんがまた、「一字一句間違えたら腹切りものだ」なんて言って、大変でした。

川名 私は国際奉仕担当でね、当時の地区の国際奉仕担当は、米山と国際奉仕全部入っている。財団まで含めて6つくらいずつ委員会があって、米山も5、6あるの。そのたびに、「副幹事さん、地区の代表で来て下さい」って言われて、白石さんに相談すると、「あんた担当だから行ってこいよ。俺は忙しい」。それで回数が多くなった。ABC会館なんて何回行ったかわかんない。委員会をやらせると地区を代表していく。まず、最初の挨拶をしなければいけない。今考えると、俺も頓珍漢な挨拶してたんだね。彼らは専門家みたいなもんじゃないですか。交換学生の委員会なんてプロですよ。

高橋 ぼつと副幹事なんていっても、むこうは何年も専門家だもんね。

川名 米山だってすごいですよ。「もし川名さんが言っていることが本当だったら、米山ひっくり返りますよ。ガバナーが言ってたんじゃないですよ」「私の私見ですよ」「それだったらいいですよ。記録しますから、取り消して変えますか」なんて、えらい恥をかきました。自分では本を読んで勉強したんですが、全然違う。経験がないとできないね。筆頭副幹事にはかられたと思ったね。あれだけは。ガバナーがいるときはいいですよ。ガバナーがいるときはガバナー挨拶して。聞いているほうも、ガバナーが言っているからといって、ちゃんと聞いているんですが、いないと「副幹事頑張れよー」とか

言われちゃって・・・頑張れないよ。



杉本 富正会員

杉本 私も全くロータリーの地区の事を知らなかったの、矢野先生に断りにいったんですけど、涼しい顔なんだよ。絶対やれみたいな。それで、腹決めたわけ。予算編成するにも地区の事がわからないもんだから、

非常に困る訳。それから、矢野さんは「会費は絶対上げるな」って言うわけ。会費を上げないで地区の予算編成をしろと。そうすると、地区大会とPETSの余剰金を地区の予算に組まなきゃ駄目なんです。そうすると、平田さんみたいな人に頼まないといけないわけ、地区大会の余剰金出して。それで、なんとかできたわけ。前年度の会計が山下寿太郎さんという人で、この人が地区の事をよく知っていたから、会計のことを聞くとみんな分かったんです。だから出来たようなもの。もう一つは、私に言わせれば白石さんはミスターロータリーアン。あの人が、地区会計をきちっとやってくれて、矢野先生が紹介してくれたミス八王子の清水さんに会計をやってもらったの。ほとんど何にも知らない素人さんに、地区の会計のまとめをやれと言った訳。わたしは週に一回くらいしか行かないから、清水さんは苦勞して泣いたそうですよ。白石さんが毎日ガバナー事務所に行っていたからまとまったんだと思います。

川名 会計も高橋さんですよ。高橋さんがいなかったら大変だったと思いますね。元バンカーですもの。

高橋 白石さんはアバウトで苦勞しましたよ。

川名 そういう組み合わせもよかったんですよ。白石さんは色々やって目立つけど、陰の立役者は高橋さん。高橋さんの存在は、僕にとっても本当に大きかった。矢野先生も感じてたと思うよ。杉本先生が入って来て、財務を立て直したんだけど、高橋さんがいなかったら出来なかったと思うよ。矢野先生がガバナーとしてスタートしてすぐに挫折するかなと心配するくらいの時期あったんですよ。そういうことをきちっともとに戻して、先生に引き継いだ。一年間の経理をきっちりとまとめる基本をつ

くったのは高橋さん。それから、俺は高橋さんを本当に尊敬している。

矢野ガバナーの入院とスケジュール変更

矢野 6月に病院で検査をした結果、再検査、入院ということになり、ガバナー年度が始まってすぐの7月末ごろから8月いっぱい入院しました。その頃は、ガバナー訪問もクラブを一つ一つ全部回るでしょ。今みたいに、いくつか一緒にできないから。そうすると、暮れまでに全部終われないですよ。それで、白石さんと相談に行ったんです。そうしたら、「年度内に回ればいいいんだから、ゆっくり回りなさいよ」で、終わったのが2月末頃かなあ。

高橋 6月までかかりましたよ。丸1年かかりました。川名さんと二人でスケジュールやり直して大変だったんですよ。大体は12月で済ますようにと調整していたんですが、8月に休んで、いつ回復するかわからないということで全部やり直したんですよ。

杉本 ガバナーが継続できるかどうかという問題になったんじゃないか？新宿の女子医大にいった時に、「ことによったら、矢野さん危ないんじゃないか」という話もあって。

川名 そういう噂は広まってたね。

矢野 7月に2、3公式訪問をやって、8月にピタッとゼロになった。なんとかしなきゃと思いましたよ。まずいななんて思わなくて、どうしたら行けるかと、そればかり考えてました。

川名 一ヶ月くらい箝口令したんですかねえ。きちっとできるまで黙ってようと。白石さんの命令なんだよ。

高橋 一番苦勞したのは、病気でね、突然なことが出てくると大変です。矢野さんが8月でしょ、川名さんが10月、12月、2月って入院したんですよ。これもまた大変でした。

新宿 常円寺での地区役員会

矢野 昔は、委員会や会議をやった後に一杯飲む

機会があったのですが、それをどうしようということになりました。いろいろ考えて、及川さんのところに私と川名さんで行ったところ、「新宿に私の寺があるからそこを使ってくれ」とタダで使わせてくれました。

高橋 地区役員会を最初はハイアットでやったんですけど、凄く金がかかったんです。毎回、地区役員会にこんなに金が掛かっちゃうんじゃないか・・・というところに、たまたま及川さんが来ていて、「俺の兄貴が常円寺でやっているから話してやる」ということで、話してくれたんです。宿坊ですよ。

川名 宿坊といっても9階建ての凄く立派なビルですよ。

川名 大変だなあって思ったのは、お手伝いさんがいないわけじゃないですか、地区の役員会に。だから、皿洗いから全部やるわけですよ。



天野 照仁会員

天野 ガバナーは地区の予算を減らしたほうがいいということで、お寺を借りたわけだ。でも、手伝いする人は誰もいない。借りただけ。後は良きに計らえ。良きに計らえたって皆手弁当。地区の委員会を開いた時に、こっちは手弁当で行って手伝ってる。その日当のことは全く考えていない。あげくに、高橋さんとか川名さんが皿を洗うわけだ。そうしたら、「エプロンでも買ってやろうか」。地区の予算を削って、借りたという事はいいいことだけど、あとは誰が安くしたかという、我々みたいな名も無いロータリアンがたくさんいたんですよ。

高橋 池澤さんが毎回、朝から行って、マイクの調整から配線からやって、片付けて帰るんだよね。

天野 何にもないところだから。机を並べてマイクを用意して、お茶を出して。

高橋 洗うんだよ。俺と川名さんとで、片付けて洗っている時に、「なんだよこれ」・・・

川名 俺は、あの時に島倉千代子の歌を思い出したんだよ。冷たいな一つという時に。

矢野 本当に手伝う人なんていないんですよ。お坊さんだけのところですよ。洗う人なんていないわけですよ。で、伊勢丹からくるわけですよ。あれは、置いて終わったら持って帰るでしょ。そうすると大変なんですよ、こっちがね。

天野 ガバナーは大変じゃないよ。回りの人間が大変なんだよ。

八王子のガバナーの評判

川名 新宿の京王プラザでやっていて、私と高橋さんがトイレにいったんですよ。そうしたら、あるクラブの人達がきて、「ガバナーの話聞いたけど、田舎の女学校の校長らしいけど、話は結構なものだなあ」、で「私、八王子クラブですけど」って言ったら、「わー、すいません、失礼しました」って。

杉本 それは、私も強烈に覚えている。田舎もんだと思っているわけ。ところが、挨拶が抜群にうまかった。歴代のガバナーで一番上手いとおもう。挨拶も上手いし、内容もいいわけ。それがよかった。

矢野 やっぱり田舎の女学校の校長なのかね、あそこに行く。

杉本 話は、歴代で一番上手いと思う。あと矢野さんがガバナーをやる上で白石さんの存在が大きかったね。僕は、そう言う点では矢野、白石コンビは抜群だと思いますね。

平田 白石、矢野コンビなんですよ。今思えば、白石さんがガバナー。

矢野 凄い頼りになりましたよ。なんかあったらあの人に頼んどきやあなんとかなる。

平田 白石さんがいなかったらガバナーになれなかった。

宮原 白石さんの話は嘘がなかったからね。ストレートで。あれは、あの人の魅力ですよ。

川名 矢野ガバナーも名ガバナーだったよ。

地区大会のてんやわんや

司会 そろそろ、地区大会のお話をお願いします。

矢野 なんとと言っても、あの当時は我々はしょちゅう集まってたね。

平田 川名さんとは、矢野さんが会長の時の幹事、副幹事なんですよ。一週間に5日、4日、某小料理屋で毎晩。

川名 呼ばれるわけじゃなし。

平田 何となく集まってくるんだよね。

川名 政治の世界でもそうらしい。いろいろな法案つくっているじゃないですか、まじめにやっても決まんないんだって。だいたい、酒を飲んだ席で、決まるんだってね。なるほどな一つて。すみれで決まってたんだね。あの頃は、ロータリーが面白かったんだよ。

平田 矢野さんがガバナーになって、今年は地区大会をやんなきゃならないと。我々としてみれば、地区大会なんてよく知らないわけですよ。ちょこつと顔出して、逃げちゃうだけだから。さあ弱ったなあ。そうしたら、その料理屋に呼ばれて、「川名さんとかは、地区の大役をやっているからできない。平田お前大会やれよ」、「私の名前なんて駄目ですよ」、「いや大丈夫、あんたの上にちゃんとした実行委員長をつけるよ」って言うんだよ。それで口説かれて、「じゃあやりましょう」と。次に、カウンターに土屋さんと呼んで、「実は、地区大会をやるので実行委員会をつくらなければならない。土屋さんに実行委員長をやってほしい。」「平田が幹事やることになってますから、御神輿に乗って下さい」って言ったら、土屋さんがむくれちゃって、「そんなら実行委員長なんていらねえじゃねえか」って来たわけ。「土屋さんにやってもらわないとクラブもまとまらないし、実行委員会もできないから、とにかくお願いします」と、大変だったよね。大体、先生が実行委員長を頼むのに、「幹事はできているからそれに乗っかればいい」なんて言うからいけないんだよ。とにかく、まず事務局の吉田さんのところに行って

どんな風にやるんだか聞いたんだよ。なんでも知ってるロータリーの主みたいな人だったからね。「そりゃあ大変ですよ」って、皆馬鹿にするんだよ。当時は、クラブの会員が120人くらいいたんだけど、地区大会をやるなんて頭になかったから、「そうかあ、矢野さんがガバナーになると、地区大会やらなきゃいけないんだよな」から始まって、土屋さんも本気になってくれ始めたんですよ。会場は、芝の新高輪プリンスホテルし



平田 允会員

平田 それまでは、新橋とか銀座とかそうそうたるところがやった訳ですよ。そうしたら、新高輪ホテルが「八王子さんがやるんだって」「八王子つてどこだ」になるじゃない。担当者が生意気であ、お金掛かりますよ」って言うんだよ。土屋さんとか高橋さんに相談してなんとかあったんだ。あの時、73クラブだったね。矢野先生が5000人集めろって言ったんだよ。考えられないでしょ、今だって。でもね、4500人集めたんだよ。うちのクラブの会長は腹立てちゃうしさあ。ガバナーがねえ。「実行委員会をこんな風に組んだので」と見せたら、「こんなの紙切れじゃねえか」って会長にやられたんだよ。何が、気に入らないかという、ガバナーがあって、こうなって大会実行委員長がいて、その横にクラブ会長を書いたんだけど、これが気に入らないっていうわけだよ。

高橋 そんな些細なことだよ。序列がどうのとか。

平田 でも会長をたてないと出来なかったんだよ。矢野さんの前では言えなかったけど、一時は「うちのクラブはそうそう協力できない」くらいのこと言われちゃったんだよ。矢野さんが、もっと頭下げてくれりゃあよかったんだ。

矢野 そういうことがあったんですか。

平田 ガバナーは細かいところは全然しらないわけ。本当に、乗っかっているだけだから。

高橋 地区大会も色々と変更があつて大変だったんですよ。

1994-95 年度地区大会より 思い出の一こま



ブラウン RI 会長代理を迎えて



熱のこもった
矢野ガバナーの挨拶



土屋実行委員長の挨拶



平岩外四氏へロータリーの森基金贈呈



司会をする白石地区幹事

平田 一番困ったのは、阪神大震災があったこと。1月17日に。それで、3月に地区大会。1月17日以前に、晩餐会のアトラクションに車人形をやろうということになっていたんだけど、演曲はまずいんじゃないかというのが出たんだよ。おれは、車人形ぐらいはいいんじゃないかなと思ったんだけど、そうはいかないんだよね。土屋実行委員長はまずいつというわけよ。それで車人形はやめようということになったんだ。あの時点では地震が酷かったからね。忘れもしないのが、手ぶらじゃあ断れないということで、20万もって。それからほかにも問題がおきたんだ。韓国のガバナー夫人が急に歌を歌うって。

高橋 それはスケジュールにはなかったんですよ。

平田 矢野先生が一言も言ってくれないわけよ。ガバナー夫人が歌を歌いたいって言っているよとか。こっちは全然知らないから。宴会の始まる寸前になってそんな事言われたってやりようがないよ。

宮原 前の日だよな。

平田 それで、ホテルに聞いたら、ピアノの調律に10万かかるっていうんだよ。じゃあ、しょうがないからやるかということになったら、今度はガバナー夫人がピアノを舞台の上に上げてくれっていうわけ。そんなことできね一つ言うんだよ、ホテルで。そこで俺が怒っちゃって。「誰も頼んでやってもらっているんじゃないか。おたくの方でやらしてもらいたいっていうからやってんじゃないか」と言ったら、事実はそうじゃあないんだな。矢野さんが、韓国に行った時にその夫人の歌を聞いてすばらしいと言って、「是非、うちの大会で歌ってほしい」って頼んでたんだよ。一言も言ってくれないから、そんなこと。今度は、韓国のガバナーが「冗談じゃない」って。「おたくのガバナーがうちに来た時に頼んだから、ピアノも連れて来たし、それでどっちでもいいってことはないだろう」と。で、丸山さんとか皆あつまっちゃって、「こりやまずいよ、日韓関係にひびが入る」って言うわけよ。結局、ピアノは下で歌ってもらったんだけど、歌う方にしてみればピアノが近くにないと格好つかないんだな。ガバナーは知らん顔しちゃってたんだから。

高橋 歌は上手でしたよ。

平田 向こうは晩餐会のメインと思って、ピアノも連れて来て、前の日に「わたしはどう出たらいいですか」って聞くわけです。こちらはそんな事、聞いてないから。「そんなプログラムは無いですよ」って言ったから大変でした。

高橋 随分変更になったね。車人形が取りやめになって、講師。はじめは誰だっけ？ はじめは出雲市長。岩國哲人が知事選挙に出るんで駄目になったんだ。プログラムもできてたんだよ。それで、畑恵になったんだ。

平田 前に磯村がやって、その次が畑。時間が心配だったから、畑さんに早く来てもらったわけ。そうしたら、初めて言うんだけど、矢野先生がガバナー挨拶を20分のところ45分やったんだよ。

高橋 司会を会員の中条静夫さんがやるはずだったのが、半年ほど前に亡くなられて変更になったでしょ。女性アナウンサーに。それで、白石さんが総合司会して。平田さんが陰にまわって調整しているわけ。それで、矢野さんがオーバーしたから、平田さんが飛び回ってましたよ。

平田 畑恵は、次の講演があるから帰るって言うんだよ。それは困るってということで、皆が紙に書いて矢野先生に時間だから切り上げるように伝えてこいって言うんだけど、俺それ全部押さえたんだよ。「矢野ガバナー一世一代の講演なんだ。これだけは、おれが責任とるからやらしてやってくれ」って。

矢野 そうなの。

平田 そのうちお偉いさんが、「もうやめさせろ」と。俺は、舞台の裾に行つて絶対行かせないわけ。「ここでやめたんじゃ、矢野先生が言いたい事が半分も言っていない。とにかく思う通りにやらせてくれ。後はおれが全部責任取るから」って。だから誰も紙持っていないでしょ。畑恵が帰っちゃうっていうから、慶応の卒業生をあつめて同窓会をやってもらったんだよ。

矢野 あれ怒ったんだよね。

平田 怒ったもいいとこだよ。帰っちゃうって言ったんだもん。

平田 あれが一番の思い出でしょうね。それと韓国のガバナー。丸山パストガバナーが、「悔しいだろうけど、あんたが謝れば全部丸くおさまるんだ」って言われて、しょうがないから行つて「ご無礼して申し訳ありませんでした。前から矢野ガバナーが受けていたのは知らなかったのは私の手落ちです。ピアノはあげられません」で、なんとか日韓のヒビが入らなかったんだよ。

矢野 そんな、裏話は知らなかったなあ。

平田 右田先生が救護班してて、「平田さん、駄目だよそんな赤い顔になっちゃ。ちょっと来なさい」って裏へ引っ張ってくれて血圧計ったら200ある。「あんたここに寝てろ」って言われたけど、「冗談じゃねえ、俺は死んでもやりたいんだよ。俺が、寝たらみんなむちゃくちゃになっちゃうよ」って。それから、みんな血圧を心配してくれるようになったんだ。

あとがき

話の中によく出てくる「すみれ」という小料理屋は残念ながら店を閉めてしまったので、当時同じように良く集まっていた店で座談会を開きました。酔うほどに(平田さんはお酒は飲まないのですが)話がはずみ、矢野パストガバナーも知らないスタッフの苦労話、裏話が続出。当時と同じように、にロータリーを肴にしながら楽しい夜が更けていくのでした。

座談会の話の中にも何度も出てくる矢野ガバナー年度一番の立役者の白石地区幹事は2001年に、白石さんを補佐した中村地区副幹事は2006年に病気でお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈りしたいと思います。

記念誌委員会 委員長 土屋 隆

「40～49 代パスト会長」

平成 20 年 9 月 29 日 於：京王プラザホテル 15 階「櫓の間」



座談会出席者

- 山田 一眞会員(40代会長 1987年 7 月入会)
- 新井 勝良会員(41代会長 1979年 3 月入会)
- 大貫 一会員(42代会長 1964年 4 月入会)
- 杉本 當正会員(43代会長 1990年 9 月入会)
- 須佐美康治会員(44代会長 1978年 7 月入会)
- 土屋 隆会員(45代幹事 1993年 3 月入会)
- 天野 照仁会員(46代会長 1988年 4 月入会)

- 池田 恒彦会員(47代会長 1992年 7 月入会)
- 松本 啓祐会員(48代会長 1994年 3 月入会)
- 宮原 隆夫会員(49代会長 1988年 3 月入会)

記念誌制作者

- 土屋 隆…記念誌委員会 委員長・撮影
- 堤 吉久…記念誌委員会 司会・編集

土屋 本日は、第 40 代会長から第 49 代会長(1998 年～2008 年)までの皆様にお集まりいただきました。残念ながら第 45 代会長の重久三行氏は昨年 12 月 3 日にお亡くなりになられたので幹事をしておりまして私がこの座談会で重久さんの想いを偲ばせていただきます。

既に皆様からは、ご自身の年度の記録として活動報告(本記念誌 41 ページから 60 ページにて掲載)を頂いております。記録としての原稿を頂きましたので、本日の座談会は、我がクラブの未来を語っていただく事にしました。

会長としての貴重なご経験をもとに「これからの

我がクラブに望むこと」「今後の会長に伝えたいこと」という 2 つのテーマについてお話願います

「これからの我がクラブに望むこと」

司会 年度のクラブテーマを「ロータリーの夢を追いかけて」とされた第 40 代会長、山田パスト会長お願いいたします。

山田 会長をさせていただいて、もう 10 年経っちゃったんだな、と言う想いで話します。ロータリークラブの活動は地域の企業家達が集まって、地域



山田 一真会員

の問題を取り上げた事が発祥だと理解しています。それがいつの間にか「組織、組織」になってしまった。組織に比重が高い今を見直していかなければいけない。継続的な奉仕活動が、地域＝八

王子に根ざしていなければおかしい。J.C. 時代は、調査、検討、計画してから実行に移せと教えられた。今、八王子に何が必要なのか、何が求められているのか、何が不足しているのか、考えた上で行動しないと、「金持ちが何か配っているよ」と言われて八王子の人々から忘れ去られてしまう。自分の時に何をしていたかと言うと、40 周年記念事業に力を入れてはいたが、前年、別府さんが会長だった時に実行した八王子周辺の「視覚障害者の為の点字のマップ」作成を継続してやらせていただいた。八王子の公共施設とか八王子駅周辺の案内図を点字で作った。次に八王子駅構内の案内図を構内のどこかに点字で掲示できないかと JR 八王子の企画部に持ち込んだが、設置場所の所有者が定まらず、あっちこっち振り回されているうちに私の年度が終ってしまった。振り返って見ると一つのプロジェクトは少なくとも 3 年以上は継続してやらなければならないと考えている。

大貫 点字のプロジェクトは地区での評価が高かった。

司会 年度のクラブテーマを「40 年の思いを新たに」とした第 41 代会長、新井パスト会長から頂いた活動報告には「次なる 60 周年に向かってクラブの発展と会員のご健勝をお祈り申し上げます。」と締めくくられておりました。我がクラブに望む事をお聞かせ下さい。

新井 難しいテーマだな。ロータリーの初めの理念からすると、ロータリークラブはビジネスマンと専門職業者、たとえば弁護士のような知識人の集まり。ロータリーはビジネスを根幹にしてスタート

し、行動しなくてはならない。あまり親睦に走りすぎると長続きしないと考えている。ロータリーはビジネスファーストという“かたち”でやるので、現役であろうとリタイアしようとする企業の中の看板的存在である者達が、私自身もそうですが、自分の企業をよくする意識でやる。やっていくにはうまく運ばないといけないから親睦を図る。ロータリーから職業奉仕を除いてしまったら意味の無い団体となると思う。

司会 第 42 代会長、大貫パスト会長から頂いた活動報告には「マッチング・グラント」を利用した報告と、もっと国際奉仕をしようと書かれておりました。

大貫 松平さんがガバナーの時、「日本人のロータリアンは寄付ばかりして、引っ張り出して利用するのが下手なんだ。」といわれて以来「マッチング・グラント」を使って奉仕活動しようと考えていた。内容は活動報告を読んでください。

これからの我がクラブに望む事は、「継続的な奉仕活動」の一つはやってもらいたいという事。「ロータリーの友」2008 年 9 月号に【「決議 23-34」への熱き思い 2007～2008 年度 RI 理事会を終えて】と題した記事が載っていた。その記事によると「決議 23-34」は歴史的な文書として手続要覧に記載されたとなっている。「決議 23-34」には奉仕活動は年々変わった方が良くと書かれていたんだが、年々変わるのではなく、奉仕活動は継続しなければならないというように修正されてきた事が紹介されている。一つ一つ違った奉仕では僅かな奉仕しか出来ない。継続的に多くの奉仕をするという事が重要な考え方だ。

もう一つ我がクラブに望む事。非常に良いロータリアンを養成する手段



新井 勝良会員



大貫 一会員

ですから、これはと思う新入会員を地区の委員に出す事を是非お願いします。クラブの中だけでロータリーを見るのと、地区からもロータリーを見るのではまったく違います。

司会 クラブテーマを「活かそうロータリー」とされました第43代会長、杉本パスト会長お願いいたします。



杉本 當正会員

杉本 時間があまりないからです、米山奨学事業について簡潔に申し上げます。この事業は継続し発展させるべきであると考えます。第1に、わが国のロータリークラブ独自の事業だからです。

2番目に、世話クラブとカウンセラー制度が設けられていることです。これは、他の奨学金にはない制度です。今年度当クラブでは、東京学芸大学在学中の辛 仁英さんを中村千晶さんがお世話しています。3番目に、毎年15億円前後の寄付金が集まっています。これはなんといっても、わが国ロータリアンのすばらしさの証左であると思います。この寄付金は、30年も前から税制上の優遇措置が与えられています。日本赤十字社に対する寄付金の扱いと同格です。大阪のパストガバナー伊瀬芳吉さんが、当時総理大臣だった学友の大平正芳さんと土光経団連会長に働きかけて実現したものだそうです。

司会 第44代会長、須佐美パスト会長は「語ろうロータリー、そして友情を」と言うクラブテーマを掲げられました。

須佐美 私も今お話しが出た「米山奨学事業」についてサポートして行こうと思います。「米山奨学事業」は、すばらしい継続事業ですから。

私が会長の時、東京青梅ロータリークラブの40周年記念式典にスポンサークラブとして招待され、出席いたしました。私の先輩方がご苦労された事

なのに、青梅の皆さんから大変暖かいもてなしを受けました。そして思うのですが、私達のクラブも、ビジターの方々により一層暖かいもてなしをしたら良いと思いました。昔はビジターの方々をポラロイドカメラで撮影して台紙に貼ってお渡ししていました。きっと記念になって良い思い出になったと思います。



須佐美康治会員

司会 第45代会長、故重久パスト会長の幹事をなされた土屋隆会員に、故人にかわって我がクラブの未来への想いを語っていただきます。

土屋 重久パスト会長は、大きな会社の技術を支え、経営もさせていただきあって、人間的に大変立派な方で、ロータリー歴は短かったですが会長を立派に務められました。またロータリーに対する興味が大変強かったと思います。会員になって10年、20年と経ってロータリーに慣れてしまった私達と違って、ロータリーの事はまだあまり知らない分、八王子だけではなく地区、全国に範囲を広げて「囲碁」や「無線」の同好会に参加し、ロータリーを積極的に楽しんでいました。ロータリーが新鮮に目に映ったのではないのでしょうか。会員みんなが参加して楽しめるクラブを期待していたと思います。残念だったのは、「ロータリー100周年に向け2～3年かけて何か社会奉仕事業を始めよう」と提唱され検討したのですが、うまく出来なかったことです。重久さんにとっては心残りではなかったかと思います。CLPによって継続的社会奉仕事業が出来るシステムが生まれれば良いなと思っていたのではないのでしょうか。

司会 第46代会長であり、本年度「多摩南グループ ガバナー補佐」である天野パスト会長お願いいたします。

天野 多摩南グループ ガバナー補佐として各ク



天野 照仁会員

ラブのクラブ協議会、例会に出席していると思うことが有ります。50名以上の会員を有するクラブと30名以下のクラブの違いです。30名以下のクラブになると、例会とクラブ協議会の出席人数があまり変わらない。30名以下の場合、クラブ協議会に出席すると、地区に対して「何もしてくれない」などの不平不満が出てきたりする。クラブにとっては「高い志し」も必要だが、財政的基盤が一番大切だと思う。

結論として、我がクラブに必要な事は、「会員数が65名では少ない」と言う事です。増強が一番大切ということです。会員が多ければ色々な職業の人と会える。我がクラブの会員は、在籍年数、年齢に関係なく入会してもらいたい人達を知っているはずです。私が我がクラブに望む事は、もっとも増強に励むべきであると言う事です。

司会 「実践しよう地球にやさしい生き方を」をクラブテーマにされた、第47代会長、池田パスト会長お願いいたします。



池田 恒彦会員

池田 今この席に重久会長がいらっしゃらないのがとても残念です。重久会長から「副会長をお願いします」と言われ、お受けするか悩みました。その頃、東北への親睦旅行に女房が参加し、旅先で女房が“語り部”から「人から声が掛かったら受けなさい。声が掛からなくなったらお終い。」と語りかけられた事を知りお引き受けしました。

1992年に入会させてもらいメンバーで居るだけで有り難いこのクラブには、伝統的な部分として「人と人の繋がり」が出来ていると思います。今後もこのようなクラブであって欲しいと望みます。そして「東京八王子ロータリークラブと言えこれ」と言

うような核となる奉仕活動事業があって欲しいと望みます。

司会 第48代会長、松本パスト会長お願いいたします。

松本 まず第1に、新井さんの意見と同じく、楽しんでいるだけでは駄目。池田さんの言う「人と人との繋がり」は大切で、それにプラス継続的事业を地道に行うことが必要。



松本 啓祐会員

第2に、変革が必要。サンヨーのCMに「チェンジ ユア バッテリー チェンジ ユア フューチャー」（電池を換えて未来を変えよう）というのがあった。

我がクラブが核となる継続事業を持たないのは50年間変わっていない。楽しんでいるだけでなく、継続事業を行う未来の為に改革が必要ではないか・・・と言うのが私の我がクラブに望む事です。

司会 第49代会長、宮原パスト会長宜しくお願いいたします。

宮原 クラブの外に出ると「八王子さんはどんな活動しているの」と聞かれ「八王子さんは大人のクラブだからな」とも言われたりする。これは肯定的に考えると八王子クラブの個性でもある。先



宮原 隆夫会員

ほどから「継続的な奉仕活動をしよう」という事になっていますが、基本的に地域の特性に合わせる事が本来の奉仕活動だと思います。私達の地域に必要とされる奉仕活動は地域の変化にも合わないとおかしい。地域にとってもっとも効果的な奉仕活動は何年かのスパン（5年位）を設けて変わっていくものではないかと思っています。

「今後の会長に伝えたいこと」

司会 今後入会する会員、今後このクラブの中心になっていく会員に対して、パスト会長が伝えたい事、例えば、「会長として得た大切な事」「もう一度考えて見たい事」などのメッセージをお願いいたします。

山田 活動する団体であるならば、若い年齢の会員を増やすように考えて欲しい。

新井 私達はローカルな職業人の集まりである。クラブとして社会奉仕に何かするといっても、予算の7割を自分達に使って、残りの予算の中から僅かしか奉仕に支出していないのだから、大きな顔は出来ない。職業を通じて合理的な活動をしなさい。お遊びクラブにしない事です。

大貫 先ほどの私の発言に誤解の無いよう言いたい事がある。継続的な奉仕活動は3～5年が良い。地域に対する奉仕活動を主とし国際奉仕を考えるのが良い。私は国際奉仕の地区委員の経験から、我がクラブに入会した会員は外（地区）から八王子（クラブ）を見てもらいたい。

ガバナー訪問でクラブに行けばそのクラブがどんなクラブかすぐに分かる。

天野 確かに、話を聞かなくても、部屋に入っただけでどんなクラブか見えてしまう。

杉本

1. 入会するなら我が八王子クラブへ
2. もう少し増やそう奉仕活動

3. 会長は自分が正しいと思った事を推進すべき

須佐美 私達の例会に来ていただいた方々に、良い印象を残してもらえるクラブであって欲しい。

天野 継続事業を行うのは大変結構な事と思います。それには、増強によって財政基盤をしっかりとさせることが大切。増強で財政が安定し、継続的事业が可能となりクラブの活性化が図れる。

地区に人を出す事も良い事。それにはやはり増強による財政基盤の安定が必要です。

池田 ロータリーに強い思いがあるなら、遠慮なく会員の皆さんに開示して協力を求めれば、会員の皆さんの協力によって必ずうまく行くと思います。

松本 会長経験ではなく、新井会長の幹事をしてきた経験から、これからの会長に一言。図書館に本を寄贈したのですが、いまだ少し寄贈したかった本が残っています。

知的貢献はすべきであろう、それがないと昼食クラブになってしまいます。

宮原 これからの人に自分の経験を伝えたい。私は会長には選ばれなくなかったが、会長に選ばれて良かったという気持ちに変わりました。変わった理由としては、委員長になって欲しいとお願いした会員のうち誰一人依頼を断らなかった事。これは我がクラブの良いところだと思います。又、ガバナー補佐を迎えてのクラブ協議会において各自の能力の高さを強く感じました。我がクラブは人材の揃った素晴らしいクラブなので、自信を持って会長になってください。

あとがき

皆さん、自分の年度に成し遂げた奉仕事業や会員増強の思い出に誇りを持っておられ、八王子ロータリーを単なる親睦団体でなく、意味のある魅力的な会にしたいという強い思いを感じました。

今回の司会は第51代会長予定者の堤会員にお願いしました。司会をしながら八王子ロータリークラブらしい継続的な奉仕活動の重要性をしっかりと心に焼き付けたようです。歴史と伝統もこうして時代の変化に対応しながら引き継がれていくのだと思います。51年目からの八王子ロータリーも楽しみです。

記念誌委員会 委員長 土屋 隆